

2021 年度 事業計画

施設名 東北沢つどいの家

1 利用状況

事業種別： 生活介護 定員 7人 利用者数 11人

(1) 障害支援区分

区分6	10人	区分5	1人	区分4	0人
区分3以下	0人	計		11人	

(2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1級	2級	3~7級	なし	
愛 の 手 帳	1度					0人
	2度	3人				3人
	3~4度					0人
	なし	7人	1人			7人
計		10人	1人	0人	0人	11人

(3) 年齢、性別

10代以下	1人	40代	2人	男性	6人
20代	3人	50代	1人		
30代	2人	60代以上	2人		
計		11人			
				計	11人

※平均年齢：42.9歳（4月1日現在）

2 事業実施状況

(1) 活動・支援の内容

概要

- ・ 障害者総合支援法施行規則第二条の四に規定する、入浴、排せつ及び食事等の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供その他必要な援助を要する障害者であって、常時介護を要するものにつき、主として日中において、入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに生活等に関する相談及び助言その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動又は生産活動の機会の提供その他の身体機能又は生活能力の向上のために必要な援助を行う。
- ・ 日常のプログラムはもちろん、外出や宿泊訓練、地域イベントへの参加など様々な体験を通じて社会経験を豊かにしていきながら、自分で判断をする基準を養い、考えることを習慣づけていくことで、地域の中で『自分らしい生活』を送るための礎を築いていけるように支援を行っていく。
- ・ 本年12月に開所40周年を迎えるにあたり、記念となる企画を実施する。
- ・ 地域との連携を再構築していけるようにイベント等への参加などに努めていく。

(2) 地域交流

- ・ 事業スタートから40年を迎える今年度は、積み重ねてきた実績をPRしていきながら、地域の方々との繋がりをこれまで以上に意識しつつ、感染症の状況を留意しながら地域との連携を模索していく。
- ・ 社会資源の一端として、地区社協や町会をはじめ近隣の施設や団体の会合などに参加し、つどいの家の存在を周知しつつ地域で暮らす障害者の生活実態を伝えていけるように努めていく。

### (3) 家族、関係機関との連携等

- ・ コロナ禍で、実際に顔を合わせの情報の交換が難しくなっている状況において、些細な齟齬が大きな不信感に繋がってしまう可能性をはらんでいると強く意識しながら、綿密な連携を積極的にとっていき姿勢を大事にしつつ、電話などを活用しながら直接的なコミュニケーションでいつも以上に丁寧な対応を心掛ける。

### (4) ボランティアや実習生の受入れ

- ・ 昨年からの状況で、普段にも増して限られた人間関係のなかで生活することが多くなった利用者の視点や世界観を広げていくために、一人でも多くの人と関わることはこれまで以上に重要だととらえ、数少ない機会になるかも知れないが外部との繋がりを可能な限り保っていく。
- ・ 事業所で受け入れるボランティアや実習生は、年齢、性別、職業、趣味など様々な背景の人と関わることで、利用者に有益な刺激を与えることができる。また、福祉事業への理解と地域社会への貢献・促進に繋がるよう、感染状況に充分留意しながら可能な限り受け入れていく。

### (5) 危機管理

- ・ コロナ禍において感染防止を最上位に位置づけ、日頃からの事業所内消毒の徹底はもちろんのこと、感染者が出た場合のフローチャートを作成し、素早く実施できるように話し合いと確認の機会を多く設けるとともに、状況の変化に応じてブラッシュアップしていく。
- ・ 大規模災害等に備えて、防災備品の確認と整備を行っていく。

### (6) 職員研修の実施

- ・ 40周年を機に、事業所の成り立ちや歴史を全員で振り返りながら、創設時の事業理念を再確認していく。
- ・ 体制上困難な面もあるが、リモートによる外部の研修などにもなるべく多く参加できるようにしていく。
- ・ ヒヤリハットを積極的に活用しながら、小さな気づきをもてる力を職員個々が育てていけるようにする。

## 3 重点課題と取組

### ① 40周年を記念する企画の実施

事業開始から今年度で40周年を迎えるにあたり、これまでの軌跡を記録としてまとめたものを発信していくと共に、利用者にとっても地域にとっても「有益な社会資源」として、今後のつどいの子の家の事業を考えていけるような企画を実施する。

### ② コロナ禍における支援の見直し

事業所をはじめ、生活全般が感染症の拡大に影響を受けていくなかで、行動制限などによるストレスを抱えている利用者に対し、傾聴の時間など精神面のアプローチをこれまで以上に重点をおいていく。また、保護者と顔を合わせて話しをする機会が大幅に減っており、利用者のみならず保護者に対しても、電話など直接的なコミュニケーションでの対応を実施していく。

### ③ 個別ニーズへの対応

メンタル面を中心に利用者個々のニーズに沿った支援をこれまで以上に行えるように、支援体制を整えていく。また、個別外出を希望する利用者への対応も、感染対策を十分に留意しながら実施していく。